

料金後納

ゆうメール

(株)育脳寺子屋MAC 本部教室 MAC真成塾
〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20
電話:(075)871-0374 FAX:(075)882-3777

2017年
3月号

Mathematics Abacus Chinese character

MAC NEWS

お子さんが大人になった時、社会で活躍できるヒントがいっぱい！！



「本当に頭が良い人」とは！？

お父さん、お母さんに質問です。我が子にはどんな子に育てて欲しいですか？

成績優秀？ 有名校合格？ 一流企業に就職？

どれも魅力的ですし、我が子がそうなってくれたらとても嬉しいですね。

しかし、成績が良いとか、高学歴だというだけではこれからの時代をたくましく生き抜いていく為には不十分だと育脳寺子屋は考えます。

育脳寺子屋の育てたい子は「**本当に頭の良い人**」です。

それは成績や学歴だけを言うのではありません。

「本当に頭の良い人」ってどんな子だと思いますか？

それは「他人を幸せに出来る人」のことなのです。

「勉強ができること」と「頭がいいこと」は全く違う！

先日ある方の本を読了しました。その方は塾業界で20年以上指導され、今までに100冊以上の教育書を書かれてきた方です。その方も育脳寺子屋MACと同じく、進学のための勉強ではなく、

「メシが食える、魅力的な大人を育てる」

という理念を掲げ教育をされている方です。その方が考える「本当に頭が良い人」、つまり社会人になってから自分の力でメシを食っていける人は「他人を幸せに出来る人」だと言うのです。

そして「勉強が出来ること」と「頭がいいこと」は全く違う！と、これまでの経験から断言されています。

その先生いわく、

「勉強ができること」と「頭がいいこと」は、必ずしもイコールではありません。

たとえ東京大学に入っても、それは簡単にいってしまえば「〇×クイズの正解数が多かった」にすぎないのです。それだけで幸せになれるほど人生は単純なものではありません。

「本当に頭がいい人」とは「他人を幸せに出来る人」のことです。

勉強はできるけれど、人と繋がることができない。

「エリート」と呼ばれながらも、相手に歩み寄ることができない。

人間関係の軋轢（あつれき）から、立ち直ることができない・・・。

そういう人を私は本当にたくさん見てきました。

公私にわたる様々な人間関係の中で、他人を思いやることができない。

「俺は勉強ができるから」「私は難関校に入学したから」という「学歴&肩書き」だけでエリート意識にしがみつくなのは、間違っています。

偏差値の高さと、コミュニケーション能力の高さは必ずしも比例しません。

とのことですが。これには育脳寺子屋も同意見ですが、親御さんはいかがですか？

時代がこれだけ変わっているのに、 昔の価値観を押しつけていないか？

今の親世代が子どもだった頃と今とでは全く時代が変わっています。しかし、どうしても親は昔の教育観を子どもに押しつけてしまうものです。

一昔前、それこそ「学歴社会」という言葉が出始めた頃は確かに「学歴」が役にたった時代でした。

ある程度の学力があればある程度の学校に入学できて、ある程度の学校に入学できればある程度の就職先が用意されていて、ある程度の就職先に就職したら年功序列で何歳で年収はこのくらい・・・と将来の設計ができた時代でした。

今もそんな時代だったなら、できるならお金で学歴を買ってでも我が子に与えてあげるべきだと考えます。

しかし、働いておられる方はよくお分かりだと思いますが、そんな時代はとうの昔に終わりを迎えています。

一昔前の「学歴社会」は偏差値至上主義で「進学の為の勉強をする」という悪しき習慣を作ってしまった結果、高学歴なのに仕事ができない人間を大量生産してしまったの

です。

「本当に頭がいい子」を育てる「7つの力」

先述のベテラン先生は長年の経験から、本当に頭がよい子に育てるには以下7つの力が必要であると考えられています。

- ①「魅力」・・・人が集まってくる人間としての器
- ②「体力」・・・全ての活動の土台となる基礎体力
- ③「やる気」・・・自分から楽しんで行動する力
- ④「言葉の力（国語力）」・・・全ての学力の土台となる力
- ⑤「見える力と詰める力（算数力）」・・・意図を読み取り粘り強く考える力
- ⑥「親子力」・・・親と子どもの関係から生まれる力
- ⑦「あそぶ力」・・・物事を柔軟に考えられる力

今回はこの中からいくつかピックアップして、どのような経験・環境を通してその力が育まれるかをお伝えしようと思います。

まずは魅力（人が集まってくる人間としての器）についてです。

「人」と「人」の間で生きるのが人間で、「人」と「人」の間で生きていくためには魅力が必要となります。

「あの人といるとなぜか楽しい」「あの人と一緒にいたいなあ」と思ってもらえる人、社会人でも親御さんのまわりに「あの人と一緒に仕事したいなあ」という人、思い浮かびませんか？（逆に仕事したくない人の方が多いかもしれませんが・・・）

魅力のある人には、自然と人が集まります。そんな魅力は「8つの体験」を通して身につきます。

- ①「愛された体験」・・・誰かから惜しみない愛情を受ける（両親・祖父母など）
- ②「豊かな生活体験」・・・感じて考えながら日常生活を送る

- ③「遊び尽くした体験」・・・自然の中で「五感」を使って遊ぶ
- ④「葛藤体験」・・・うまくいかないこと、理不尽、苦労などつらい体験をする
- ⑤「乗り越え体験」・・・辛いことを乗り越えた体験
- ⑥「哲学する体験」・・・「自分とは何か？」を考える
- ⑦「本音を知る体験」・・・大人の世界を垣間見る
- ⑧「器を広げる体験」・・・どんなときでも動じずに行動する

こうして見てみると、やはり机に座ってする勉強以外から得るものが非常に大きいと感じます。特に「葛藤体験」「乗り越え体験」は学生のうちに数多く経験させてあげたいものです。

日頃の生活で、子どもが失敗しないように親が先回りしてませんか？
自分でさせたら時間がかかるからと、親が代わりにしていませんか？

自分で考え行動し、うまくいかなければまた考えて自分で乗り越える。その繰り返しの中で様々なことを考えたり感じたりする。そうすることが人としての「魅力」を磨いていくのではないのでしょうか。

ぜひ我が子にはしんどい思いをたくさんさせてあげて下さい。そして、親がすべきなのはそれを陰で支えたり応援したりすること、それだけで十分なのです。

やる気～自分から楽しんで行動する力～

多くの親御さんにとって、この力が一番我が子に付けたい力！とお思いではないでしょうか？どのような子がやる気を持って、どんなことでも受け身ではなく自分から楽しんで行動できるようになるのか？それは「自分が好き」な子です。自分が好きな子は、絶えず努力ができるのです。

では、どのような子は「自分が好き」になるのでしょうか。

それはその子の持っている「自己肯定感」の総量によって決まります。

自己肯定感とは「自分のあり方を評価できる感情、自らの存在意義を肯定できる感情」のこと、つまり「自分が好き」と思える気持ちです。

自己肯定感の高い子は「努力し続けていれば、いずれできるようになるんだ」「最初は苦手でも、途中で投げ出さなければなんとかなる」と考えるので、どんな事でも乗り越えられるようになります。

自己肯定感を伸ばすには「のびのびと自分を表現できる環境があること」と専門家は仰っています。また自己肯定感には「内側の層」と「外側の層」の二つの層があり、内側は家庭、外側は学校や塾などの環境によって築かれます。

MACは塾なのに「うちの子は楽しんで通っています」と仰る親御さんが多いです。忘れものをして帰らされたり、自分の事は自分でしないといけないのにどうしてでしょうか？

それは答えが一つでない問題に対し自分なりの考えを自由に述べたり、できない事も「自分で乗り越えた」という経験をくり返したりすることで、「自分でしている」を体感しているので、自己肯定感が伸びているのだと思います。

MACでは忘れ物をしたり、ずるをしたり、ごまかしたりした時は厳しく叱ります。しかし、結果は良くなくとも頑張る姿勢が見えた時や、壁を乗り越えられた時には大いに褒めます。

恐らくそんなことをくり返している間に子供たちは「何が大切なのか」という本質的な部分を無意識のうちに理解してくれているのではないのでしょうか。そしてその経験から「自分はやったらできる」という自信を持ち、粘り強く物事に取り組めるようになるでしょう。(そうなってほしいと願いながら、日々指導しています)

あとは「内側の層」です。子どもにとって「安心できる居場所」があれば自己肯定感が伸びます。それがご家庭であるべきなのです。

子供が一番影響を受けるのは親、特にお母さんの言葉です。叱るべき時はしっかり叱らないといけない事は前提として、我が子のことを良く見てよく褒めてあげて下さいね。